

自校の活用を振り返り、今年の実践を考える

本年度の学校CIO研修会は、「校内の教職員が、授業改善に向けICTを効果的に活用したり、校内での授業研究会でICTを有効活用し充実させたりできるようにするためのロードマップ（推進計画）を策定する。」を目標に開催されました。

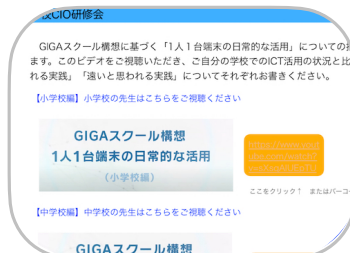
講師として信州大学名誉教授 東原義訓先生をお迎えして、昨年度に引き続きご指導をいただきました。



①授業前には西春近北小学校の塚田琢磨校長先生より授業ガイダンスをしていただきました。



②後半の研修会では、学校CIOの役割と責任に関して伊那市教育委員会 ICT教育推進係の前田係長より、お話がありました。



③学校CIO研修会事前の準備としてビデオを視聴し、校長先生方は各学校での実践を振り返りschoolTaktに記入してありました。



④事前の準備への書き込みを活用しながら、各学校の活用の様子を紹介しました。その上でICTを授業の中でどのように活用していくことが大切についてグループワークが行われました。



⑤信州大学名誉教授の東原義訓先生より「対話的な学びのレベル分け」についてご指導いただきました。（詳しくはICT活用教材DB内の05実践事例集>033学校CIO研修会参照）



⑥「育てたい力が変わってきている、大きく考えを変えなければならない、だが不安感がある」という東原先生の言葉が現状に重なるように思えました。」（参加者の感想より）

信州大学名誉教授 東原義訓 先生のご指導をもとに推進センターで編集させていただきました。

NO54とあわせてお読みください

学校CIO研修会に関する感想

校長は一通りのこと（iPadの使用するアプリ等）をとらえた上でマネジメントを行って行くと伝わりやすさがあると思います。

対話的な学びのレベルは図示によりたいへん納得できました。十分な共有の時間扱いとその後の関わり合いがポイントになると思いました。授業の基本形も第一歩として校内に伝えて行きたいと思います。

Numbers、表計算ソフトの可能性を感じることができた。一覧になり同時に同画面に入力できることで、スクロールだけで全員の考えを参照することができる。授業中の途中共有に効果的に使えそう。

4年生でサクサク操作していて、当たり前の教具になりつつあることに感心した。操作がわからないところでも、互いに聞き合う関係が出来ていて安心できる学級。授業者が適切な言葉だけを使って活動を保障し進めていたのが、私自身を振り返る勉強になった。クラスで進行形の「かえるの学校」活動を、国語の教材にして、子どもたちの願いが元で授業づくりがされていたことが素晴らしい。

本年度、自校で意識して取り組みたいこと

ベテランの先生でICTに抵抗のある方にも、子供に働きかける場面での助言をいただきながら、ICTをもう少し使っていこうとする気持ちを高めたいと思いました。

普段の授業の中で、iPadをもう少し使えていたら、子供たちの意見交換がスムーズに行ったり、子供たちでもっと授業の内容を進めることができた、先生方は感じていよう。

GIGAサポーターの方に積極的に質問して、今日のような授業も私から伝えて、実際に授業に生かせるようにしたいと思います。その授業を公開する場で、多くの先生に参加していただき、取り組みを進めていこうとも思いました。

共有することは進んできているので、その先の質問意見、比較分類、修正創造までを全職員が意識して授業作りがされるように、教務や研究主任を通して進めていきたい。

伊那市の昨年の「学校CIO研修会」をもとに刊行



「できるICT授業」は昨年度伊那北小学校での公開授業をもとに作られました。授業ではスクールタクトを使っていましたが、「授業展開モデル」はどのOSでも実行可能です。ICT活用教材DBでも共有していますので、先生方も一度体験していただき勘所を捉えることができれば、ご自身のスタイルに合った授業展開を生み出していただきたいと思います。

伊那市では、「学校教育情報化ビジョン2021」をもとに、iPadを導入して「ICT活用教育」を推進しています。

伝統的
学びを深めるICT活用

先進的
学びに導くICT活用

「Society5.0」時代の
学びを支える教員

個別最適な学び・対話的学び
創造性を育む学びの実現